第２学年　保健体育　保健分野【交通安全】　　　場所　屋外運動場（雨天時　体育館）

自転車の「ながら運転」の危険性を考え、その危険性を伝えよう　１

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導者　主任教諭　関谷　洋平

１　指導のねらい

交通事故による傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することを、数学的、科学的な知識及び技能を活用しながら考えることができるようにする。また、第３学年理科の内容である力学的エネルギーの学習につなげ、本時の指導内容の深化を図る。　　　　　　　【知識及び技能・思考力、判断力、表現力等】

傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、他者や社会に伝えようとする意欲や態度が向上させる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【学びに向かう力、人間性等】

２　学習指導要領との関連

保健体育　保健分野（３）傷害の防止　交通事故の危険予測と回避

３　安全に関する視点

学校、家庭、地域社会において他者や社会の安全に貢献できる生徒の育成を目指す。これからの学校における安全教育には、主体的に安全文化を構築しようとする強い意気込みや意欲、行動力をもつ生徒の育成が必要であり、将来、地域社会で安全文化を守り続ける人材が、事件や事故を限りなく０（ゼロ）に近付けることに大きく貢献すると考える。

４　関連する教科等の内容

　　小学校算数　　　「速さ」「変化と関係（比例、反比例）」

小学校体育　　　「交通事故の防止」

　　中学校数学　　　「比例、反比例」「一元一次方程式」

　　中学校理科　　　「運動とエネルギー」

　　中学校特別活動　　学級活動「安全な生活態度や習慣の形成」

　　中学校美術　　　「交通安全のポスターを作ろう」

　　中学校国語　　　「交通安全に関わる標語を考えよう」

５　指導計画（１０時間＋１時間（特別活動））

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　時 | 学習内容 | 評価規準 |
| １ | 傷害の発生と要因 | 傷害，健康に関する資料を見たり，これまでの生活を振り返ったりしながら学習活動に取り組んでいる。 |
| ２ | 交通事故の発生と要因 | 傷害の発生要因について理解したことを言ったり，書き出したりしている。交通の防止について，課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。 |
| ３【本時】 | 交通事故の危険予測と回避  | 交通事故の防止について，既習内容や経験などから比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。 |
| ４ | 交通事故防止 | 交通事故の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、意欲的に他者や社会に伝えようとしている。 |
| ５ | 犯罪被害の防止 | 犯罪被害の防止について、その回避の方法を考え、意欲的に他者や社会に伝えようとしている。 |
| ６ | 自然災害の一次災害と二次災害 | 自然災害の一次災害と二次災害にについて理解し、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。 |
| ７ | 自然災害による傷害の防止 | 自然災害について、その回避の方法を考え、意欲的に他者や社会に伝えようとしている。 |
| ８ | 応急手当の意義と方法 | 応急手当の必要性や方法について理解している。 |
| ９ | 心肺蘇生（実技） | 心肺蘇生についての知識を身に付けるとともに、応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができる。 |
| 10 | 直接圧迫止血法　包帯法（実技） | 止血法、包帯法についての知識を身に付けるとともに、応急手当が必要な場面に遭遇した時にとるべき行動を選択することができる。 |
| 関連 | （特別活動）交通安全啓発活動 | 　交通事故から身を守り安全に行動するための必要な知識・技能を身に付ける。社会の一員として学習したことを積極的に伝える。 |

６　本時の展開

1. ねらい

交通事故による傷害は、人的要因、環境要因などが関わって発生することを体験的に理解する。

既習内容を活用し、自転車の「ながら運転」の危険性についての課題意識をもつ。

1. 展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・学習内容 | 支援・留意点　◎評価 |
| 導入 | ○生徒が経験した道路歩行中に感じた自転車の危険について振り返る。発問「道路歩行中に感じた自転車の危険な運転を思い出しましょう。」発問「危険な運転のうち、交通事故の加害者になる可能性の高い場面を挙げましょう。」 | ・危険な運転について個人で振り返りをさせてから、小集団で危険な場面を整理させる。・交通安全教材等を活用し、具体的な場面を提示する。・体験については、運動場又は屋内運動場等で行う。ラインを引き仮想道路上を走行する。 |
| 展開 | なぜ、自転車の「ながら運転」が危険なのだろうか考えよう○スマートフォン「ながら運転」の体験○体験によって気付いたことと危険性についての意見交換発問「『ながら運転』をした場合とそうでない場合の違いを挙げましょう。」発問「時速１５ｋｍで５秒間、『ながら運転』した場合に何ｍ進むでしょうか、また、その間、どのような危険があるでしょうか。」 | ・進行方向の左右に適切な物体を置いたり人を配置したりして、「ながら運転」をした場合としない場合の見え方を比較できるようにする。・距離の求め方を確認する。◎「ながら運転」中は、見えているつもりでも、実際は見えていないことを様々な例を挙げながら認識することができている。 |
| まとめ | ○教師による講話　・「ながら運転」時の速さと距離に触れながら危険性を伝える。　・今後、学習するエネルギーに触れながら、運動する物体が自らに及ぼすエネルギーと他に与えるエネルギーの影響や危険性を伝える。　・今後に行う課題解決に向けた具体的な取組への意欲をもたせる。 | ・教科等の学習と関連させる。　算数・数学の学びが活用されていることを意識させる。今後の理科の学習に関連させ、走る自転車がもつ運動エネルギーの大きさについて触れ、その危険性を説明する。◎算数・数学等の教科の学習が活用されていることについて、教科の学習の大切さを述べている。（ワークシート）・「ながら運転」による事故の新聞記事等を活用する。 |

（３）期待する生徒の反応

「ながら運転以外にも、危険な自転車運転はあると思う。自分が事故に遭うだけではなく、事故を起こすかもしれない。法律があるから、警察に捕まるからではなく、自分や他の人の大切な命を大切にするため、私は危険な自転車運転をしないようにする。」